【山崎名誉主宰の俳句】

おどろおどろ

山崎　聰

甲斐信濃一泊二日のいわし雲

流木は流木として鵙の昼

月の夜はゆっくり行こう奈落まで

ぼそぼそと泣いているなり山の柿

泣きごえが途切れてからの秋の暮

爛熟のあしたをおもい谿の秋

霜の朝鐘鳴りわたる村はずれ

雨のあとすこしはなやぎ残り柿

精神のおどろおどろを雪の朝

冬満月遠い人から白くなる